

2025 年 初詣神社巡り～大分・熊本・宮崎～

右城 猛・絹枝

1. まえがき

12月22日に「土佐料理司」で、高野広茂・いくよご夫妻と私ども夫婦の四人で忘年会をした。その時、「九重星生ホテルを12月31日から3泊で予約している。一緒に行きませんか」というお誘いを受けた。

高野ご夫妻はこれまでに九重星生ホテルに二度宿泊している。温泉が最高に素晴らしいという話はお聞きしていた。今年の正月は何も予定を入れていなかったもので、3泊4日の九州旅行に同行させていただくことにした。

高野ご夫妻が予定を決めていたのは、宿泊先と湯布院の狩生博文氏宅訪問だけであった。行先を決めたのは出発してからの車中であった。益城町、熊本城、水前寺公園、高千穂峡、宇佐神宮に行くことにした。

2. 湯布院

土電ハイヤー株式会社の中島さんが運転するジャンボハイヤーに乗って、岡豊苑を6時40分に出発。八幡浜港10時15分発の宇和島運輸フェリーで別府観光港に13時5分に着く。

最初の訪問先は、高野ご夫妻の知人である湯布院の狩生博文氏宅。高齢者介護事業や学校給食事業、不動産事業などを手広く経営されている。

自宅のすぐ前を久留米市と大分を結ぶ久大本線(愛称は、ゆふ高原線)が通っており、

背後には「豊後富士」と呼ばれる標高1,583mの活火山「由布岳」がそびえ、絶好のカメラスポットになっている。



狩生博文社長宅の庭で由布岳をバックに記念撮影



湯布院の金鱗湖

その後、湯布院の温泉街に移動。外国人観光客で溢れていた。亀の井別荘の茶房天井座敷でコーヒーを飲もうとしたが40分待ち。金鱗湖で記念撮影し、駅前で名物の蕎麦まんじゅうを買って湯布院を後にした。

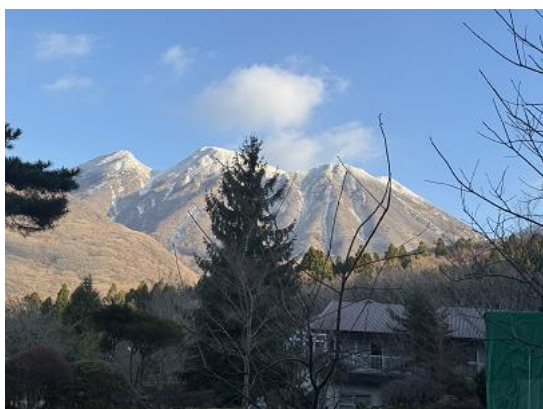
3. 九重星生ホテル

日本百名道に選ばれている「やまなみハイウェイ」を走って九重町(このえまち)の九重星生(くじゅうほっしょう)ホテルへ到着したのは、16時20分であった。

ホテルは、阿蘇くじゅう国立公園「タデ原湿原」の東南端に位置している。タデ原湿原は、九重火山群の山麓湧水池にできた湿原である。希少植物をはじめ多くの生き物が成育・生息している。

ホテルにチェックインして、ロビーから窓の外を見ると、三つの峰に冠雪した山がそびえていた。標高1,744mの三俣山(みまたやま)である。

ロビーの横には図書コーナーがあり、書棚にはたくさんの小説が置かれていた。



12月31日16時20分にロビーから眺めた三俣山



ホテルのロビー



ロビー横に設けられた図書コーナー

ロビーや図書コーナーのテーブル、窓際のカウンターはすべて高知産の魚梁瀬杉で作られていた。

ホテル館内に大浴場があるが、ホテルの外には日帰り入浴もできる露天風呂「山恵の湯」があり、ホテルとは地下通路で繋がっている。

露天風呂は、硫黄泉、単純泉、酸性緑ばん泉、冷鉱泉の4種類の源泉掛け流し温泉である。浴槽はヒノキ風呂、桶風呂、打たせ湯、岩風呂、冷泉岩風呂、ジャグジーがある。

露天風呂に浸かると正面に三俣山が見える。上を眺めれば満天の星空である。感動させられる絶景である。

外気温は床面や手すりが凍るほど寒かったが、宿泊中は毎日朝夕30~40分、露天風呂に浸かっていた。



露天風呂「山恵の湯」(九重星生ホテルのHPより)



元旦の朝食



おせち料理と「右城様」の焼印が入った割り箸



ホテルのウッドデッキテラスから眺めた三俣山
(1月2日17時50分)

厳選された食材を使った上品な味付けの料理には大満足であった。用意された割り箸には、レーザー彫刻機で「右城様」という焼印が入れられていた。

ホテルには和室、和洋室、洋室合わせると59室あるが、予約は10組、40人以下に限定しているようである。社長を含めわずか8名程のスタッフでフロント、配膳、掃除などすべての作業をこなすには、その客数が精一杯なのだろう。

一般のホテルでは、スタッフの役割分担が明確にされているが、ここでは社長も含め全員が協力し合っている。若い女性のスタッフが、うちは旅館のようなホテルですと言ったのは、このことを意味しているのだろう。

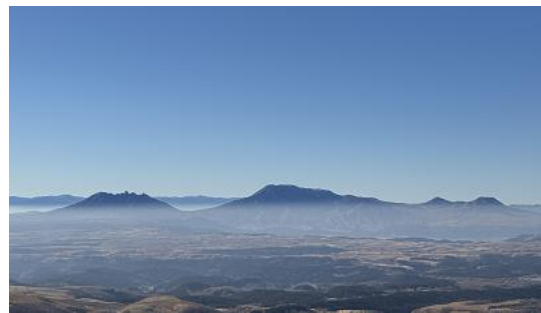
天然温泉の露天風呂、料理、従業員の心配りは満点である。高野ご夫妻がこのホテルを気に入っている理由がよく分かった。

4. 2025年元旦

ホテルを9時半に出発。益城町に向かう途中、雲海から九重連山が頭を出していた。



ホテルの玄関(1月1日9時30分)



やまなみハイウェイ展望台(1月1日9時40分)

阿蘇市黒川に来ると広大な平野が開け、その周囲は 360 度山脈で囲まれていた。火山の爆発でできた世界最大規模のカルデラが外輪山に囲まれているのである。



阿蘇山の外輪山で囲まれた阿蘇市黒川の平野

5. 益城町

2016 年 4 月 14 日と 16 日に発生した熊本地震で、益城町(ましきまち)は 2 回震度 7 の揺れに見舞われ、たくさんの家屋が倒壊した。

第一コンサルタンツでは 2016 年 6 月 5 ～ 7 日の日程で熊本地震災害ボランティア団(総勢 18 名、団長：弘田部長)を益城町に派遣し、社員から集めた義捐金を益城町に贈呈している。また、5 月 6 日～8 日には、筆者ら 6 名が被災調査を実施した。

地震から 8 年 8 カ月が経過した現在の復興状態が気になっていた。熊本城に行く途中で益城町を視察することにした。



新築された益城町役場



県道 28 号の沿道には更地が目立つ

益城町役場など新築された建物も見られるが、更地のままの土地が目立った。元の町並みに戻るには被災後 10 年でも難しいように思えた。

6. 熊本城

熊本城への入館料は 800 円であるが、元旦だけは無料であった。

熊本城は 1607(慶長 12)年に加藤清正によって築城されたが、1877(明治 10)年の西南戦争で天守・本丸御殿一帯が焼失した。現在の熊本城は、1960(昭和 35)年に鉄骨鉄筋コンクリートで再建されたものである。

熊本城の石垣は、加藤清正の工夫により「武者返し」と呼ばれる工法が採用されており、日本一美しくて壮大である。



武者返しのある石垣



熊本城天守閣



復旧工事中の石垣



まだ手付かずの石垣もある

2016年の熊本地震で石垣の多くが崩壊した。現在もまだ復旧工事が進められている。完全に復旧するのは2052年とされている。36年もかかるとは驚きである。

7. 水前寺公園(水前寺成趣園)

初代熊本藩主・細川忠利が1632年に茶屋を建てたのが始まりで、その後三代目網利のときに庭園が完成した。

中国の詩人陶淵明(とうえんめい)の詩に由来して、成趣園と名付けられたと言われている。

正式名は水前寺成趣園であるが、水前寺公園とも呼ばれている。

水前寺公園内にある稲荷大明神に参拝する。



水前寺成趣園



水前寺公園内の稲荷大明神で参拝

園内には西南戦争で破壊された熊本城下の復興を願い、旧熊本藩家臣らにより創建された出水(いずみ)神社があり、細川藤孝など、歴代の肥後藩主とガラシャ夫人を祀っており、無病息災や商売繁盛、学業成就などのご利益があるとされている。

初詣客で長蛇の列ができていたので、ここでの参拝は諦めた。



初詣客で長蛇の列の出水神社

8. 俵山大橋

熊本地震では、西原村も震度7の揺れに見舞われ、県道28号熊本高森線の俵山大橋が被災した。このため被災した橋梁を撤去し、その横に新しい橋梁(3径間連続非合成鋼鈹桁橋 L=165m)が架け替えられた。そのとき、高知丸高が仮棧橋を施工している。



架け替えられた俵山大橋



高知丸高が俵山大橋の仮棧橋を施工(ネットから引用)

水前寺公園からホテルへの帰り道、完成した俵山大橋を見学した。仮棧橋は撤去されているが、ネット上に公開されている当時の写真から施工時の様子を知ることができる。

9. 高千穂観光物産館(1月2日)

朝食は元旦と同じおせち料理。9時30分ホテルを出発。宮崎県の高千穂に行く。

11時過ぎに神楽酒造のアンテナショップ高千穂観光物産館「トンネルの駅」に着く。

高千穂線を熊本県に延長するためトンネルを掘削していたが、熊本県側でトンネル内から出水があり、工事は1974(昭和49)年に中止された。内部の温度や湿度が焼酎の貯蔵条件に適合していることから、神楽

酒造が焼酎貯蔵庫および高千穂観光物産館として平成12年に開業している。

全長1,115mのトンネル内には、1,300本の樽(一升瓶18,000本分)に入れた焼酎が保存されている。焼酎は寝かせるほど琥珀色になり度数が上がりウイスキーのようなコクのある味になると言われている。観光物産館の中に焼酎の試飲コーナーがあった。

麦焼酎 長期貯蔵酒「和スピリッツ」は香りが良く美味しかったが、健康のことを考えて購入するのは断念した。



トンネル内に無保存されている焼酎

10. 高千穂峡

高千穂峡は、安見和夫ご夫妻と一緒に旅行した2007(平成19)年5月以来である。

阿蘇火山の活動で噴出した火砕流が急速に冷却されてできた柱状節理が五瀬川の兩岸に路頭していた。

真名井の滝は、日本の滝百選に選ばれている。

五瀬川に架かった御橋の左岸袂に祠があり、勾玉(まがたま)やハートの形をした高千穂焼きが1個100円で売られていた。

これに願いを書いてスタンドに吊せば、願いが叶うのだろう。



五瀬川の柱状節理と真名井の滝



高千穂焼きの焼き物に願い事を書いて奉納

高千穂峡の遊歩道の横の「おのころ池」では、鯉やチョウザメが泳いでいた。観光客が餌を過剰に与えているためか、鯉もチョウザメも異常に丸々と太っていた。



おのころ池のチョウザメ

その後、天岩戸(あまのいわと)神社西本宮に移動して参拝する。

天岩戸神社は、天照大御神様が隠れた天岩戸と呼ばれる洞窟を御神体として祀っている。岩戸川をはさんで西本宮と東本宮があり、両社とも天照大御神を御祭神として祀っている。



天岩戸神社西本宮の鳥居

11. 高千穂神社と天岩戸神社に参拝

高千穂神社は、高千穂八十八社の総社として崇拝を集めている神社。良縁成就、夫婦円満、子孫繁栄などのご利益があるとされている。境内には幹がひとつになった2本の巨杉「夫婦杉(めおとすぎ)」がある。



高千穂神社に参拝



天岩戸神社西本宮に参拝

12. 宇佐神宮初詣(1月3日)

九州最後の初詣は、大分県宇佐市にある宇佐神宮。全国に4万社以上ある八幡宮の総本宮であり、幡大神(応神天皇)・比売大神・神功皇后を祭神として祀っている。

神亀2年に創建され、今年が創建1300年に当たる。

ホテルの朝食は 8 時からであったが無理にお願いして 7 時半にしてもらい、ホテルを 8 時半に出発。宇佐神宮に着いたのは 10 時過ぎであった。もし 30 分遅かったら大渋滞に遭い、参拝はできなかつただろう。宇佐神宮の参拝者は、正月三が日で毎年 50 万人と言われている。

境内の中では日本の伝統芸能「猿まわし」が行われていた。毎年の恒例行事であり今年も正月から行われているようである。

神社の参拝の作法は、「二礼・二拍手・一礼」が一般的であるが、宇佐神宮は、鳥取県の出雲大社や新潟県の弥彦神社と同じく「二礼・四拍手・一礼」である。



宇佐神宮の大鳥居



宇佐神宮境内の猿回し



宇佐神宮の本殿に参拝

13. あとがき

別府観光港を 14 時発の宇和島運輸フェリーに乗り、途中石鎚サービスエリアで食事を済ませ、岡豊苑に帰り着いたのは 20 時であった。

去年は元旦に能登半島地震、翌 2 日には羽田空港で日本航空 (JAL) と海上保安庁の航空機が衝突する事故が起きるなど、正月から大荒れの年であった。今年の正月は天候に恵まれ、穏やかな三が日であった。

旅行の三要素は「天気、宿泊施設、料理」とされているが、いずれも 100 点満点であった。

1 月 6 日には土佐神社、1 月 25 日には金比羅宮に参拝する予定である。これだけ初詣の参拝をすれば、絶大な御利益があることだろう。

2025 年 1 月 4 日